

「視覚障がい教育の専門性に基づく自立活動の指導の充実」

北海道旭川盲学校

教頭 千葉 秀 輝

1 はじめに

本校は、大正11年に創立した日本最北にある幼稚部・小学部・中学部を設置した盲学校で、令和4年度に創立100周年を迎えました。学校教育目標である「自ら学び、考えを深め広げ、自らの人生を切り拓いていく子どもを育てます」の達成に向け、幼児児童生徒の見えない又は見えづらさのある障がいに寄り添い、将来の自立や社会参加を目指し、一人一人の発達の段階や障がいの状態に応じた教育に取り組んでいます。

本校の今年度の在籍者数は、幼稚部3名、小学部3名、中学部9名の15名となっています。校区は道北地域一円と広大であり、遠方に居住する幼児児童生徒の通学を保障するため寄宿舎を併設しています。盲学校はその名称から、一般的には盲児しか在籍していないというイメージがありますが、全国的に盲学校では盲児・生よりも一定程度の視力のある弱視児・生の割合が高い状況です。本校においては15名中5名が盲児・生であり全国的に見ても盲児・生の割合が高く、視覚障がい教育に関する専門性を維持・継承していくことができるよう、校内研修の充実を図っています。また、本校の視覚障がい教育に関する専門性を生かし、本校に在籍する幼児児童生徒のみならず、道北地区の視覚障がい教育のセンター校として、地域の小・中学校等に在籍する「見ること」に課題が見られる児童生徒への支援も積極的に行っています。

近年はICTを活用した学習活動を積極的に行っており、道教委事業である「HANDS-ON-Project」による、道内の盲学校4校を結んだ遠隔授業のみならず、道外の盲学校との遠隔交流も積極的に行っています。また、児童生徒の見えにくさに応じた教科書・教材閲覧アプリケーションを利用した授業実践を進め、これらを活用した指導の方策は教育相談等を通じ、地域の小・中学校等に還元するなどしており、このような取組が評価され、令和4年度に、北海道教育実践表彰を受賞しました。

視覚に障がいのある幼児児童生徒は、視覚的な情報の入手に困難があることから「歩くことが難しい」、「周囲の状況が分からない」、「文字が読みづらい」等の様々な学習上又は生活上の困難さがあります。本校においては、視覚に障がいのある幼児児童生徒の見えない又は見えづらい状態から起こる学習上又は生活上の困難さを改善・克服し、将来の自立と社会参加に向けた自立活動の指導の充実を図っています。

2 自立活動の内容

自立活動は障がいのある幼児児童生徒の将来の自立と社会参加を目指して、学習上又は生活上の困難さを改善・克服するための領域で、その内容は健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションの6つに区分されており、さらに27項目に分類・整理されています。本校においては幼児児童生徒の発達の段階や障がいの状況に応じて、個別指導を基本として自立活動の指導を行っており、例えば歩行指導であれば、環境の把握や身体の動き、コミュニケーションから項目を選定し、関連付けて指導します。

また、各教科の指導や学校行事などにおいても、保有する感覚の活用や補助具の使用、点字等の読み書き、ICTの活用など、自立活動の指導で身に付けた力を活用して学習を行うなど、各教科等と自立活動を関連付けて指導を行っています。

本校では、次の写真に示すように自立活動の指導において、保有する感覚の活用（A）、補助具の活用（B）、点字の読み書きの指導（C）、歩行指導（D）、日常生活動作（E）、ICT機器の利活用（F）などに取り組んでいます。



A 保有する感覚の活用
手で形、大きさ、手触りを確認する様子



B 補助具の活用
単眼鏡で駅の電光掲示板を見る様子



C 点字の読み書きの指導
国語科で点字を読んでいる様子



D 歩行指導
単独で白杖歩行をしている様子



E 日常生活動作
視覚に頼らずに服を畳む練習をする様子（寄宿舎と連携）



F ICT機器の利活用
タブレット端末を使ってノートを書く様子

3 まとめ

本校では、幼児児童生徒が自立活動の学習成果を実感できるよう、学習で身に付けた基礎的能力や歩行能力を使って課題解決したり、設定した目標を達成したりする「どきどきウォーク」という学習を長年に渡り行っています。また、旭山動物園への社会見学では、事前学習において動物園の方に来校していただき、実際に動物の皮や骨格標本に触らせてもらうことで、児童は具体的なイメージを持って動物園に行き、より深く学ぶことができました。

視覚に障がいのある幼児児童生徒は、動いているものや遠くにあるものなどを視覚や触覚により直接経験することが難しく、学習内容の理解が不十分になることがあります。そのため、各教科の内容の本質や法則性を幼児児童生徒が具体的に把握できるよう、基礎的・基本的な事項に重点を置き、指導内容を適切に精選するとともに、自立活動と各教科等を関連させながら指導することが必要です。

こうしたことから、本校では、これまで培った視覚障がい教育における専門性をさらに高め、幼児児童生徒一人一人の自立と社会参加に向けて、自立活動の指導の充実に取り組んでいます。



どきどきウォークの様子



キリンの皮に触る様子



北海道旭川盲学校

住所 〒070-0832 旭川市旭町2条15丁目

電話 0166-51-8101



本校のWebページ
を御覧ください。